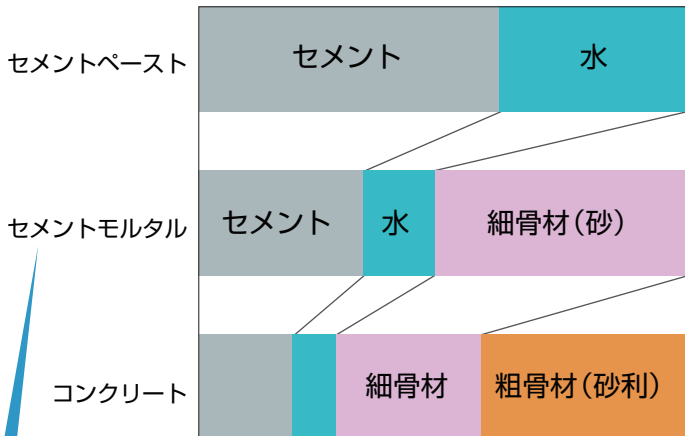


Q. ポリマーセメントモルタルって何？ レジンモルタル・樹脂モルタルとの違いは？

『よくポリマーセメントモルタルと樹脂モルタルって一緒なの？』という問い合わせが多く聞かれます。

ここで基本的なことから説明させていただきます。まずコンクリートとモルタルの違いから・・・。『そんなことくらい知ってますよー』という方も多いかと思いますが、少しの間我慢してお読みください。

コンクリートとモルタルの違いは、粗骨材が入っているか、いないかの違いになります（下図参照）。ただし、モルタルも正確にいうとセメントモルタルになります。なぜここで、あえてセメントモルタルと言ったかということ、**結合材がセメントであるモルタル**ということが重要になります。



POINT

結合材がセメントであればセメントモルタル、樹脂（レジン）だと樹脂モルタルになります。



このとき結合材が樹脂（レジン）になると、樹脂モルタル（レジンモルタル）となります。ポリマーセメントモルタルは、セメントモルタルにポリマー（セメント混和用ポリマー）が混入されているものを指します。そして一般的には、セメントに対して5～20%程度（固形分換算）入ったものをポリマーセメントモルタルと呼んでいます。これは5%以下ではポリマーを入れた効果（接着力向上、曲げ強度向上等）が出にくいこと、20%以上入れると経済的に合わなくなり、作業性も低下してしまうためとされています。公共建築工事標準仕様書（標仕）の中でも、第15章左官工事2節モルタル塗りの中で、ポリマーセメントモルタルの調合の混和剤の使用量はセメント質量の5%（全固形分換算）程度とされています。



ハイモルスーパーシリーズ



既調合モルタル、例えば弊社のハイモルシリーズもカタログに『25 kgに対して〇〇kgハイモルエマルジョンを添加してお使いください』と書いています。25 kg一袋にセメントがどのくらい含まれているかは企業秘密になりますが、概ねセメントに対して5～10%の間で添加量を決めています。その量を入れることでJISの性能を保持できるということを実験で確認して決めています。ですから現場では、カタログに記載のある量をキチンと入れて使用していただくことが重要になります。



完全プレミックス型（一材型製品）
ハイモルマックスシリーズ



その点、完全プレミックス型のハイモルマックスシリーズは、粉体中にセメントに対して5～10%程度の粉末エマルジョンが混合されていますので、現場では水で練るだけで、ポリマーセメントモルタルとしてご使用頂けるということです。

入れ忘れ、計量ミスなどもなく、品質管理の点からも完全プレミックス型の方がよいということがお分かり頂けたかと思います。

A. ポリマーセメントモルタルは、セメントモルタルにポリマー（セメント混和用ポリマー）を混入させたもので、樹脂（レジン）モルタルは、細骨材と樹脂で構成されていますので、区別されています。



下地調整塗材・全てF☆☆☆☆対応

ハイモルスーパーシリーズ

High-Mol Super

下地調整塗材 C-1 適合品

ハイモル[®] スーパー #10

標準塗厚 0~2mm



下地調整塗材 CM-2 適合品

ハイモル[®] スーパー #20

標準塗厚 0~5mm



下地調整塗材 CM-2 適合品

ハイモル[®] スーパー #30

標準塗厚 5~10mm



下地調整塗材 CM-2 適合品

ハイモル[®] スーパー #150

標準塗厚 0~15mm



下地調整塗材 CM-2 適合品

ハイモル[®]ネオ

標準塗厚 0~15mm



下地調整塗材 CM-2 適合品

ハイモル[®] スーパー #300

標準塗厚 3~10mm



JIS 認証製品^{*}・アクリル系カチオン粉末樹脂入り・全てF☆☆☆☆対応

ハイモルマックスシリーズ

High-Mol MAX

下地調整塗材 C-1 認証品

ハイモル[®] マックス #10

標準塗厚 0~2mm



下地調整塗材 CM-2 認証品

ハイモル[®] マックス #20

標準塗厚 0~5mm



下地調整塗材 CM-2 認証品

ハイモル[®] マックス #30

標準塗厚 3~10mm



下地調整塗材 CM-2 認証品

ハイモル[®] マックス ネオ

標準塗厚 0~15mm



下地調整塗材 CM-2 認証品

ハイモル[®] マックス #300

標準塗厚 3~10mm



^{*}ハイモルマックスのJIS 認証製品は、石岡製造所および大阪プラント製造品となります。

安全・安心・快適な住環境と社会環境、
地球環境づくりに貢献します。

昭和電工建材株式会社